

研究課題名	M2 マクロファージと CAF の相互作用が大腸癌腫瘍免疫微小環境に与える影響
研究期間	実施許可日 ～ 2026年 3月 30日
研究の対象	2010年1月～2020年12月の間に広島大学病院消化器外科で大腸癌の手術を受けられた方
研究の目的・方法	<p>研究目的：大腸癌においては、いまだ一部の腫瘍（高頻度マイクロサテライト不安定性症例）でしか、癌免疫療法の効果が認められないと言われていています。そのため、他の薬剤との併用によって治療効果を高める試みがなされています。また、腫瘍微小環境中に見られる腫瘍関連マクロファージ（TAM）と癌関連繊維芽細胞（CAF）は、相互作用により腫瘍免疫に影響を与えていると考えられています。本研究では、TAM 阻害剤が大腸癌に与える影響や、免疫チェックポイント阻害剤との併用療法の有効性について検討していきます。そこで今回、大腸癌症例の臨床所見と、プレパラートによる組織学的評価を行うことで、それらの関連性を明らかにするため、この研究を計画しました。</p> <p>研究の方法：手術標本を用いて CD163、<math>\alpha</math>SMA および CD8 による免疫染色を行い、TAM、CAF、CD8 陽性 T 細胞の発現や局在などの組織学的な評価を行い、それらの関連性について検討を行います。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>情報：年齢、性別、病歴、血液検査結果、画像検査結果、病理組織所見等</p> <p>試料：手術で摘出した組織のプレパラート</p>
外部への試料・情報の提供	ありません
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護	試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。
研究組織	<p>本学の研究責任者</p> <p>広島大学病院消化器内科 教授 岡 志郎</p>
その他	利益相反はありません
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場

合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

広島大学病院 消化器内科

担当者：岡 志郎（研究責任者） 清水 大輔（担当者）

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

電話番号：082-257-5190